

議会報告 (8年間を振り返って…実現したものを中心に)

● こうしてまとめてみると、子育てと教育環境の整備がずいぶん進みました。それらのことを大切にされる板原市長のもとだったからこそだと思います。苦労もありましたが、切実な声を繰り返し訴えてきて良かったなあと思っています。



切実な声を届けて、子育て支援が充実

- ① 保育料の軽減は、県下ではじめてで、注目されました。第3子を産めたのはこの制度のおかげと喜ばれています。
- ② 居残り保育料の無料化は、11時間の保育時間内で料金徴収は違法であることを指摘。すぐに改善させることができました。
- ③ 給付型奨学資金の創設は、奨学資金を借りても返せないというお母さんの声を議会でぶっつけました。何度も提案してやっと実現。月に1万円、高校生から、

- 他の奨学金とダブって利用できます。
- ④ 学童保育の充実…蓮池小学校の学童は、コミュニティセンターを利用していました。会議などがあると子どもたちはその部屋が使えません。また、第一小学校の学童は古い建物を利用していましたので、小さな地震でも心配される状況でした。いずれも空き教室を整備して移ることができました。
- 先生方の待遇改善についても、訴えていかなければなりません。

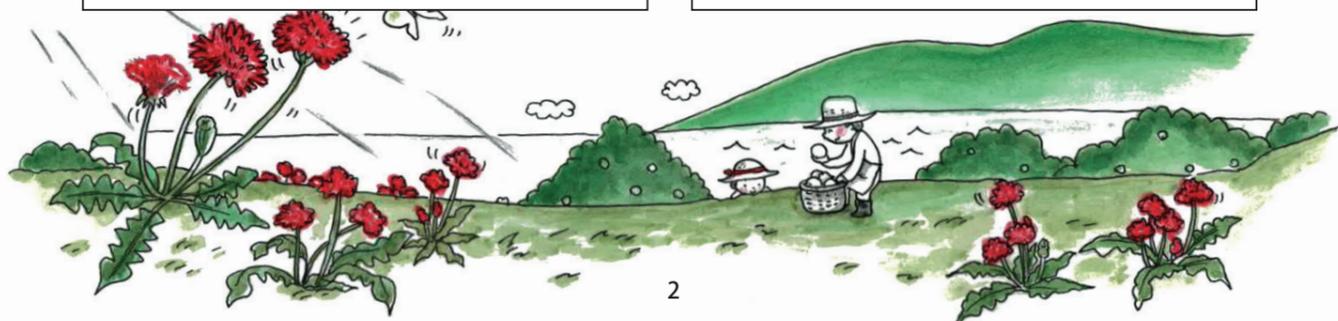
子どもの医療費 無料化に向けて

難病の子どものいるお母さん。医療費の負担が大きいとの訴えでした。何度も提案してやっと実現しましたが、土佐市の所得制限は厳しすぎて利用できる人は1割ぐらいです。

現在、県内で小学生まで所得制限なしで実施または予定しているところは34市町村のうち31、中学校までは26カ所となっています。12月議会でもこの点を指摘し、改善を求めています。

教育は人づくり 教育環境の整備を

- ① 教育費と学校図書費の増額…私が議員になった時、土佐市の教育予算は県下で最低のレベルでした。
- 何度も何度も訴え、今では他市から羨ましがられるほどになりました。
- ② 劣悪な環境の教室にエアコンを設置させることができました。新婦人の皆さんと行った学校ウォッチャーで先生からの訴えがあり、議会で改善を求め実現したのです。



身近な公園の整備、トンボ公園・蓮池公園などで実現

議会では大規模公園を求める声が多くを占めています。しかし私は、今ある身近な公園の整備を求めてきました。香美市の泰山公園は、41億円を要し、管理費は毎年3千万円必要で、荷が重すぎます。トンボ公園の整備は大ヒットでした。

毎日、子どもたちの歓声が聞こえます。また、町なかにある「ふれあい公園」は、トンボ公園のような都市公園に格上げし、イベント広場の性格を維持しつつ、子どもたちが遊べる公園とするよう、提案していきたいと思っています。

特老 89 床の建設 などにメド

議員になって以来、またかと言われるほどに特老建設を求めてきました。安価でしかも介護度が高くなって利用できる施設だからです。

やっと60床を民間で、29床は社会福祉事業団で実施する見通しが立ちました。また、高齢者や一人暮らしの方が利用できる市営住宅の改築が予定されています。

国保税を上げないでと求め

国保が高すぎる原因は、加入世帯の所得の減少と、国の繰り入れが半減しているためです。ですから県内の市町村では、一般財源の繰り入れをしている所が多くなっていますが、土佐市ではされていません。市の国保会計は底をついていますが、それでも18年度より上限額以外は値上げされていません。

「いきいき元気村事業」の 正しいお知らせと 制度の拡大

この制度は、農道や水路だけでなく、一般道路の整備にも補助が受けられるものです。ところが市の説明では、農道や水路のみとなっていて、議員にすら使い方が知らされていませんでした。

そこで正しいお知らせをすることと、制度の拡大、市内業者を利用することを求めました。

現在200万円の設計単価のうち、75%・150万円が補助され、各地で利用され、喜ばれています。

障がい者の声を届けて

- ① 視覚障がい者に対して、市民病院に振動呼び出しベルを置けました。
- ② 市役所で手話講習を取り入れました。
- ③ 障がい者の皆さんに配布する「福祉のしおり」を、解りやすく具体的なものにしよう求め、実現しました。

軽微な耐震化含むリフォーム に20万円の補助実現

屋根や床の補強を含む塗装や張替など市内に業者に頼めば、上限20万円の補助制度が実現しました。

詳しいことは都市計画課 ☎ 852-7692 にお問い合わせください。

大森陽子のフレッシュ便 **10**号

子どもと暮らしに寄り添う身近な相談相手として

2014年1月15日発行 781-1105 土佐市蓮池337-15 ☎ 088 (852) 4551 大森陽子

生活困窮者への食糧支援を 続ける藤田 寛さん やま (山谷農場主催)



●藤田寛さんは、もう20年以上生活困窮者への支援活動を行なっております。東京・山谷地区をはじめ関東地方のホームレスさんを支援しているボランティア団体に、炊き出し用のお米などの寄付を集め、送っているのです。仕事は別に持ち、支援行為は無償です。

私が藤田さんの活動を知ったのは、何かの新聞記事でした。東日本大震災でお米の需要が高まり、支援米が底をつきそうになっているという内容でした。早速、お米の寄付をお願いし、送りました。その後も自分たちで玉ねぎを育てたり、大豆をいただいて味噌を作ったり、いただいた梅で梅干しを作ったりして支援団体に直接お送りしています。藤田さんの活動は、「山谷農場」で検索するとすぐ出てきます。

●余ったお米や、味噌汁の具になるお芋などがあればご協力ください。
私の方で送らせていただくこともできます。ご連絡いただければ取りに伺います (☎大森陽子 852-4551)。

●藤田寛さんの連絡先は、
電話 090-1436-6334 (午後6時以降に)。
メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

写真は山谷農場通信『ひびき』冬号
(2011年12月25日発行) から

私のおススメレシピ

うるめのオリーブオイル漬け

宇佐の獲れたてのうるめは、青く光っています。いつもお刺身でいただいていたが、ちょっと日持ちするように「オイル漬け」を作ってみました。お酒のつまみにも最高です。

【作り方】

- ①うるめは3枚におろし5%の塩をして半日以上おく。皮はそのままです。
- ②水分をよく拭き取って一口大に切り、オリーブオイルに漬ける。
容器はビンでも食品用袋でもかまいません。

※2週間ぐらいは全く大丈夫です。商品にもならないかなあと考えています。

議会の内外で、力を尽くしたい！

父の想い、母の言葉

「差別をなくするのは教育の力」と言っていて、私たち三姉妹を育てるために働き通した父の想い。「社会があなたたちを育ててくれていることを忘れないで」と言った母の言葉。私の原点はここに 있습니다。

子どもを育てるために一生懸命の方々や、厳しい暮らしを強いられている方たちに寄り添い、今後とも力を尽くしたいと思います。



望があればどこにでも出向いて、ともに努力するのは当然の務めだと思っています。

心に響く内容と言い方で

議会で質問する前には執行部との丁寧な意見交換を心がけてきました。理解を深めること、その気になっていただくことが実現への近道だと信じるからです。議会では心に響く内容と言い方であるよう気をつけてきました。

皆さんの切実な声をエネルギーに

寄せられる様々な相談に耳を傾け、「本当に何とかしなくては」と思うことを議会で採りあげてきました。

市民の要望を支援するのは当然

これまで火渡川の改修における道幅確保、急傾斜地の指定、かけ崩れに対する市の支援、道路の舗装、安全な通学路の確保など日常的に取り組んできました。

蓮池地区はもちろんのことですが、ご要

議会の外でも力を合わせ

文旦ジュース「ぶんぶん」の開発と販売、つくし作業所の仕事づくりなど行なってきました。大綱祭りでの「福祉の店」のお手伝いは20数年になります。

大震災以降、福島県へ災害ボランティアに出向き、学校給食に自分たちが作った野菜(約2500キロ)を送ったり、ホームレスさんの支援団体に米や野菜、手作りの味噌や梅干しも送ってきました。

平和運動は暮らしの基本に関わる大切な仕事です。伊方原発差し止め訴訟団、医療生協、「土佐市タチバナを守る会」母親運動などにも参加してきました。